

課題・対策

I 教育理念・教育目的

×課題

- ・ 教育理念・教育目的が学生の学習の指針になっているか分析が不足している。
- ・ 教育理念、教育目的の評価が行われていない。
- ・ 看護学教育、学生観が教育活動の指針となっているか明確に

✓対策

- ・ 卒業時アンケートの結果を分析する際に教育理念・目的の評価を行い、学生が学習の指針になっているかの検討をする。
- ・ 教育の考え方、内容、方法を明確にする。

II 教育目標

- ・ 継続教育との関連、向上目標、体験目標の区別はない。

- ・ 学生にとってわかりやすくするため、シラバスに目標を挙げ、その科目がどの目標に当たるか明記する。

III 教育課程経営

- ・ 評価結果に基づいた改善策への取り組みとその活動が十分に周知されていない。
- ・ 理念・目的に照らし合わせて、担当している分野ごとのレベルでの取り組みにまで落とし込めていない。
- ・ 新カリキュラム運営後の評価方法が明確になっていない。
- ・ 学生の成長に関する評価視点の再検討が必要である。
- ・ 「評価結果の活用における倫理規定」が作成されていない。
- ・ 研究活動促進や自己研鑽について配慮されている実感をもてないとの声がある。
- ・ 学生の心理的安全性への認識が十分とは言えない場面もあり、指導者との勉強会の開催を試みているが、回数は不定期で、効果が十分とは言えない。

- ・ 評価結果を教育理念・目的に照らし合わせ教育課程の具体的な改善につなげるための方策に着手する。
- ・ 教育理念・目的を達成するための各分野での取り組み(授業研究等)を行う。
- ・ 領域を担当する教員同士が情報を共有する機会がない。看護実践力を養うために、関係領域の担当教員が課題を共有する機会を作る。
- ・ 新カリキュラム運営後の評価方法を明確にし、評価を実施する。
- ・ 学生の成長評価の視点の明確化と、カリキュラム構成の必要時見直しを継続する。
- ・ 「評価結果の活用における倫理規定」の作成の要否から検討を始める。
- ・ 教員の求める自己研鑽保証のシステムを具体化できるよう、ヒアリングなどを実施し、要望をまとめる。
- ・ 領域担当者の呼びかけで、分野ごとの授業担当者の振り返りの機会を定期的に開催する。
- ・ 臨地実習指導者との学生の心理的安全性に関わる勉強会を定期的に提案、実施し、意識の共有を図る。

×課題

IV 教授・学習・評価過程

- 効果的な学習が促進されるために、学生の特性を捉えること、双方向性の指導 学生の意識を高めることについて、さらに改善が必要である。
- 学生の思考力や主体性の強化を図る必要がある。
- 新カリキュラムとなり、総授業時間数は変わらないものの、科目数が増え試験科目が増えた。試験の在り方や日程について検討が必要である。
- シラバスの内容の要件はほぼ満たしているものの、学生の興味・関心と、活用の意識が課題である。
- 学生にとって必要なもの、重要と感じるようなシラバスの活用方法を、さらに検討していく。

✓対策

- 授業のねらいが理解できるよう、シラバスへの明記も含め検討する。
- 電子カルテ、電子黒板の活用、教員のアシストに加えて、反転授業やシミュレーション学習などを取り入れ、効果的に学習できるよう努めていく。
- 演習サポート教員を含めて、教員間で演習のねらいの確認をする時間を十分に確保する。
- 教授活動の質をあげるために、教員の経験の差、時間確保の現状など、フォロー体制を見直す。
- 目標達成の評価の要である単位認定試験の結果を踏まえ、教授活動の評価、試験内容・形式の妥当性、目標達成となったか評価計画に沿った視点で評価をする。
- 教育目標を意識できるような評価方法の検討と、評価計画の作成を行っていく。
- 評価点数は概ね高いが、学生の目標達成度を見ながら、低いところが改善されるよう検討を続ける。
- 効果的な学習が促進されるためには、学生の特性を捉えること、双方向性の指導 学生の意識を高めることが欠かせないため、授業のねらいが理解できるよう努めていく必要がある。
- 授業内容の発展性については意識して実践できていると思われるが、詳細については課題を提起して話し合い、より高まるようにしていく必要がある。
- 電子カルテ、電子黒板の活用、教員のアシストなど、学生の思考力や主体性の強化を図るため、さらに反転授業やシミュレーション学習などを取り入れ、効果的に学習できるよう努めていく。
- 教員間の情報共有や意見交換の機会を今までより増やし、学びあって指導技術を高めていく。その中から、本校における教員間の統一の必要などを明確にしていく。そのためには教員自らが主体的になり会議に提案する、相談を申し出るなど発信していくよう努める。
- 教員の経験の差、時間確保の現状など、教授活動の質をあげるために、個人では自己の業務管理に努める、フォロー体制では実習だけでなく授業においても教育体制を整えていく。無料セミナーなど様々な情報があるため、計画的に活用していく。

×課題

V 経営・教育過程

- ・ 管理者による方針の明示、対話機会の確保、具体的目標の提示を通じて、学校運営の透明性と一貫性を高める必要がある。
- ・ 意思決定の流れや管理職の責任分担を明確に文書化し、職員全体に周知することが求められる。
- ・ 会議での決定事項を必ず記録・公開し、全教職員がリアルタイムで確認できる仕組みを整える必要がある。
- ・ 収支状況や事業計画、入学者数の推移などの情報の明示。
- ・ 財政基盤や予算の仕組み、教育活動にかかる費用等の提示。
- ・ 予期せぬ故障への対応や不足部分もあり、計画性や透明性の向上、設備活用スキル向上。
- ・ 学生の意見を定期的に反映させる仕組みの整備。
- ・ 利用しやすい情報提供や相談手段を整備。
- ・ 学校の魅力を積極的に伝える工夫が必要。
- ・ 運営計画や将来構想の内容は教職員には十分に伝わっておらず、理解や意識にばらつきがある。
- ・ 教職員個々の知識や方法の理解が十分でなく、評価結果が授業やカリキュラムに効果的に反映されていない。

VI 入学

- ・ 総合型選抜入試は今年度初めての試みであるため、方法の妥当性や、教育効果の視点における判断材料がない。
- ・ 入学者数の減少。

✓対策

- ・ 管理規定の改定。
- ・ 教職員会議を開催し、わかりやすく説明する。

教材や器具の購入希望や教育改善の提案を積極的に反映させることで参画意識を高め、財政状況や経営方針が教育の質向上と直結していることを示し、教職員が自身の業務と財政基盤の関係を意識できる環境を整える。
- ・ 定期点検の強化。
- ・ 教職員会議を開催し、整備計画や方針を提示する。
- ・ 学年や状況に応じた柔軟で一貫性のある支援体制を明確化し、画一的・その場しのぎにならないようにする。
- ・ 支援内容の改善に活かすとともに、利用しやすい状況を作る。
- ・ 保護者向けホームページの充実や学校活動・ボランティア状況の発信、外部メディアを活用する。
- ・ 情報発信を継続的に行い、保護者や地域との双方向の理解と協力を深めるブログ活用等を整備する。
- ・ 教職員会議において、運営計画や将来構想の内容などの情報を定期的に提供する。
- ・ 自己評価の方法や知識を教職員に浸透させていく。
- ・ 3年後に評価していく。
- ・ SNSを活用した情報発信や学校周知活動として学校訪問やボランティア活動などの継続等を今後も続けていく。

×課題

Ⅶ 卒業・就学・進学（全職員）

- ・ データ分析に時間を要し、結果がタイムリーに反映されていない。
- ・ 主体的な学習能力の向上に向けた取り組みの具体的な方法の検討。

Ⅷ 地域社会/国際交流

- ・ 設置主体の使命や本校の教育理念に基づくボランティア活動の考え方とその捉え方。
- ・ 学生数とボランティア活動の需要増加に伴う学生の負担感の増加。

Ⅸ 研究

- ・ 教員の研究活動が少なく、研究的取り組みには消極的である。

✓対策

- ・ アンケート等のデータ入力と集計の自動化
- ・ 実習方法を一部見直し実施していく予定。
- ・ 主体的な学習活動を促進するための方法を全体で話し合う機会を設け、改善に向けた取り組みを検討していく。

- ・ 本校におけるボランティア活動の考え方を明確に伝えるとともに、教科外活動としてのボランティアの位置づけの見直しを検討する。
- ・ 学生生活に支障がない範囲でのボランティア活動の精選していく。
- ・ 達成感ややりがいをなど、ボランティアの活動をどのように教育活動に反映させられるか検討していく。
- ・ 国内外の研修は学生が国際的視野を広げることや日本の保健・医療
- ・ 留学生や帰国学生等、学生の希望状況に合わせて検討していく。

- ・ 身近な実践の報告をまとめることから、発表、公表の機会を増やす。
- ・ 外部での研究活動(青森県看護教育研究会)に関する内容の報告を毎年義務付け、会員以外の教員の参加意欲につなげる。